

はつらつ通信

Vo.2

H A T S U R A T S U ★ T S U U S H I N

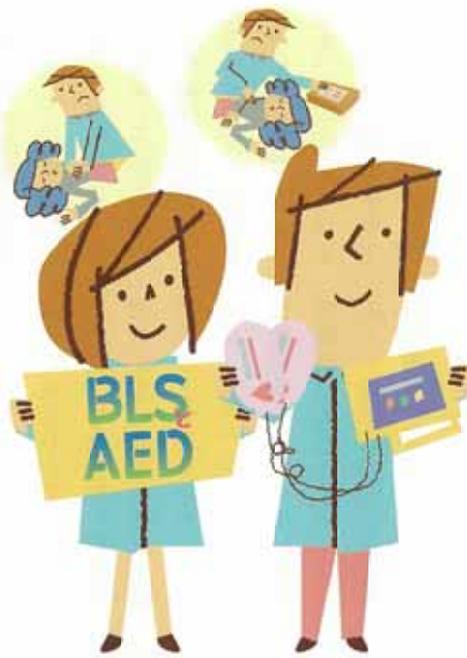
特集 BLSとAED

日本の医療技術は高いといわれていますが、欧米に比べると一般の方々の救急処置に対する意識は薄いと考えられています。近年、わが国でも心肺停止などに行われる救命処置の方法を地域や学校などでも広める動きが活発になってきました。今回はそんな救命処置についての一般知識を特集します。

適切なBLS (一次救命処置)が 多くの命を救う

呼吸停止・心停止により脳への酸素の供給がなくなれば、3〜5分間で脳に回復不可能な障害が現れ、以降比較級数的に死に至る障害

BLS(一次救命処置)とAED(自動式体外除細動装置)の普及が進んでいます。



の可能性が大きくなっていくといわれています。これを防ぐためには、急変が起こった早期から心肺蘇生法が必要となります。緊急に心肺蘇生法を必要とする救急患者は、いついかなるときにも発生します。アメリカ心臓協会のガイドライン2000では、救命の連鎖として、迅速な通報・迅速な心肺蘇生・迅速な除細動・迅速な2次救命処置の4つの輪がうまく組み合わさって機能することが重要である

といわれています。最初の3つの輪がBasic Life Support(BLS)すなわち一次救命処置といわれるものです。BLSはABCといわれる順序で道具なしの心肺蘇生法を行ないます。AはAirway(気道確保)の意味で、肺に空気の入る道を開くことであり、心肺蘇生法では最も大切なことです。あこ先学上法などが用いられます。BはBreathing(呼吸)の意味で、呼吸をしていない状態の人

救命の連鎖



夜間や休日、急病になったり、ケガをしたときは……

「佐賀県救急医療情報システム」

をご利用ください!

■インターネットホームページ

URL <http://www.qq.pref.saga.jp/>

■携帯電話等(上記URLの最後に以下を加える)

i-modo→i/ ez-web→ez/

Vodafone live→j/ L-mode→1/

■音声案内・FAX応答サービス TEL (0952) 36-4344

救急受診時の注意事項

- 時間外の受診は急患に限ります。
- 日頃から健康について気軽に相談できる「かかりつけ医」をつくり、急病の場合は、まず、かかりつけ医に電話連絡のうえ、受診してください。
- かかりつけ医が不在等で連絡がとれない場合は、救急医療機関を紹介する場合があります。
- 受診に当たっては
 - ①保険証を必ず持参してください。
 - ②時間外の診療費が加算されます。

に対し気道を確保した上で口対口(小児は鼻口対口)でゆっくり息を吹き込んで人工呼吸を行ないます。CはCirculation(循環)の意味で、循環のサイン(心臓のはたらきの低下など)のない状態の人に対して人工呼吸をしながら胸骨圧迫による心臓マッサージを行ないます。救命の連鎖の3つ目の輪の除細動をBLSに含めて行なうための機械がAutomated External Defibrillator(AED)すなわち自動式体外除細動装置といわれるものです。欧米では近年一般市民によるAEDを使用した除細動の普及が進み、航空機や飛行場、公共の場所などにも配備されるようになってきました。日本でも、平成15年4月より講習を受けた救急救命士によるAEDを使用した医師の指示なしの除細動が認められるようになり、今年度になり、非医療従事者のAEDの使用まで緩和されつつあり、航空機への搭載も始まっています。平成6年より、高等学校の教育と自動車運転免許の取得時に

BLSの講習が義務付けられました。BLSが一般市民に広く普及したとはいえないのが現状でしょう。普段元気そうな人が、突然に呼吸停止・心停止をきたす原因としてBLSとAEDの使用だけで回復することのある不整脈などであることが十分に考えられます。あなたのまわりの大切な人に急な事態が起こったとき、あなたがBLSの知識がなかったり、まわりにBLSができる人がいなかったりしたら、又、近くにAEDが置いてなかったら、ほんの短い時間の遅れが重い障害や死に直結することがあるかもしれません。急変のおこりやすい医療機関や老人の多い施設の職員はもちろんのこと、広く一般市民の方にAEDの使用法を含むBLSの技術を身につけていただき、救命の連鎖の最初の3つの輪をうまくつないでもらうことが、突然の呼吸停止・心停止をきたした人の蘇生・社会復帰の割合を今後大きく向上させることとなるでしょう。

BLSにおけるABC

意識のないときは……



気道確保

AIRWAY

気道確保とは空気の出入りする通路を確保(開く)することであり、心肺蘇生法で最も大切なことです。片方の手を前額部から前頭部にあて、もう一方の手の人さし指と中指を下あごの先の骨の部分に当て、あごを持ち上げ気道を確保します。(あご先挙上法)



呼吸をしつづける人は……



人工呼吸

BREATHING

人工呼吸はあご先挙上法でまず気道を確保し、前額部において手の親指と人さし指で患者の鼻をつまみ、口を大きく開いて患者の口を覆い、2秒くらいをかけてゆっくりと息を吹き込みます。胸部が動く(ふはたむ)か

循環のサインがないときは……



心臓マッサージ

CIRCULATION

胸骨の下半分に両掌を重ねておき、体重を利用して、1分間100回の速さで胸骨を圧迫します。心肺蘇生法は、救助者が1人の場合も2人の場合も心臓マッサージ15回と人工呼吸2回を交互にくり返します。



のを確かめながら、この人工呼吸を2回続けて行い、その後は5秒に1回の割合でくり返します。(乳児では口と鼻を同時に覆う)

